

学期末レポート課題とその提出先等の情報について

開講科目名：「超域文化科学高度教養（表象文化論）」、「表象文化論実習 II」（木曜 4 限）

【レポート課題】

以下の 5 つの課題の中から 1 つを選び、2000 字前後でレポートを作成すること。課題は各授業の担当教員から出されたものである。ジョン・オデイ先生の課題を選択した人は英語で 1000~1200 words のレポートを提出すること。また、どの担当教員の課題を選んだのかわかるように冒頭に必ず教員名を書くこと。また、氏名と学生番号を忘れず記入すること。

（*）一度休講となった内野儀先生の授業ですが、教員の健康上の問題により補講はいたしません。したがって、内野先生のレポート課題はありません。

- ① 「授業で説明した 90 年代初頭クイア理論の諸議論を参照しながら、越境的アイデンティフィケーションについて具体的な事象またはテキストを用いて論じなさい」（清水晶子先生：10/20, 10/27 担当）
- ② 「授業を踏まえたうえで、テキストを読む際にどのようなことに気をつけなければならないか、具体的なテキストを例示しながら論じなさい。テキストはシェイクスピア以外でかまわない。」（河合祥一郎先生：11/8, 11/10 担当）
- ③ 「Evaluate the statement, "We know whether something is conscious just from its behavior".」（ジョン・オデイ先生：11/28, 12/8 担当）
- ④ 「実際に美術館または画廊で見たことがある、1945 年以降に制作された美術作品を取り上げて、アーカイブという視点から、その作品の意味を論じなさい。レポートには画像を付けること。」（加治屋健司先生：12/8, 12/15 担当）
- ⑤ 「写真や映画による歴史表象について、講義で取り上げた作品やテキストなど（他の対象を随意に加えてもよい）にもとづき、自由に論じなさい。ただし、講義内容のたんなる要約ではなく、画像や映像固有の歴史表象の可能性や限界、あるいは歴史的事象の表象不可能性などに関して、多少なりともオリジナルな着眼点が含まれていることが望ましい。」（田中純先生：12/22, 1/5 担当）

【提出先】

駒場キャンパス 18 号館 3F にあるレポート提出ボックス（女子トイレの隣）の「表象文化論実習 II（オムニバス）」と貼られたボックス

【提出期限】

1 月 27 日（金）15:00 *時間厳守